

市民とともに 新都市創造へ

奥州市合併記念式典



新生奥州市の誕生を祝う合併記念式典は5月20日、市文化会館を会場に行われました。総務省自治行政局の時澤忠国際室長（総務大臣代理）、増田寛也知事、姉妹都市の市・町長をはじめ、多くの来賓が出席。相原正明市長は式辞で、各区の特性を生かした均衡ある発展と、副県都を目指した新都市の創造を推進していく決意を述べ、700人の出席者とともに市の飛躍を誓いました。



万歳三唱で新市誕生を祝い、限りない発展を願う出席者



多くの来賓や出席者が見守る中、式辞を述べる相原市長

ある未来に向かって発展する市勢を表したものです。全国から寄せられた569案の中から、合併協議会委員の投票などの結果、及川利臣さん、江刺区Ⅱの作品が採用されました。及川さんには式典の席上で、感謝状が贈られました。

心をひとつにする

相原市長は式辞で「新市誕生の喜びを13万市民の皆さまとともにしっかりとかみしめ、分かち合いたいと思います。先人の汗と涙のしみ込んだこのふるさとの大地『奥州』を守り、育て、発展させていく強い決意を新たにします。新市の力強い発展を誓っています。」

新市建設計画の将来ビジョンは「歴史息づくめぐみの郷土、産業の力みなぎる創造都市」。これはアテリイや奥州藤原氏をはじめとした多くの先人の築き上げた誇り高い歴史や文化、豊かで美しい自然をしっかりと受け継ぎながら、農業・工業・商業を充実させ、名実ともに副県都、県南の中核都市を目指すことにほかなりません。

市は、この新市の持つ新しい可能性を開花させ、夢のある13万副県都づくりを市民の皆さんとともに進めていきます。

この市章は、奥州市の「奥」と「州」のアルファベットの頭文字を外郭に、中心に市の基幹作物である「米」を納め、「奥」の字を簡略化したものです。市内を流れる大河・北上川とその澄んだ空を青で、主産業の農林業を緑で表し、夢

会場は市文化会館（Zホール）大ホールには、来賓、各区関係者、一般市民合わせて約700人が出席しました。

式典は午後1時30分に始まり、市民バンドの華やかな演奏、鹿踊の勇壮な舞が開幕を飾りました。続いて行われた市章披露では、相原市長、小沢昌記市議会議長と、この日6歳の誕生日を迎えた小野寺歩紀ちゃん、水沢区Ⅱ、五嶋夏美ちゃん、胆沢区Ⅱ、竹澤美希ちゃん、水沢区Ⅱ、信田龍之介ちゃん、水沢区Ⅱの4人が一緒に歌って除幕。白い幕の中から鮮やかな青と緑に彩られた市章が現れると、会場から大きな拍手がわき起こりました。

夢ある未来に向かって